

健康教育

- ☆ いつまでも自らを育て高める竜小教育……………2
——連帯と相関の中で——
- ☆ 自分の健康は自分の手で……………6
——地域ぐるみの健康教育——
- ☆ 豊かな心・たくましい子を育てる牧小の教育……………10
——自らつくる健康教育——
- ☆ 知・徳・体の調和のとれた健康教育……………17
——特にふれあいの教育をめざして——
- ☆ 豊かな心、たくましい体をめざす東明教育……………23
- ☆ めあてをもってせいっぱいやりぬく子ども……………26

朝日新聞社提供





静岡県浜松市立竜禪寺小学校

校長 杉山 勝治

いつまでも 自らを育て高める竜小教育

—— 連帯と相関の中で ——

1. はじめに

健康とは、常に現状をのりこえて、よりよい自分を創造しながら、最高の自分を作り上げていくという人生を、生きぬくことだ。

「生きる」とは「活動」すること。なにごとくも客体としてではなく、主体となって働きかけていく。即ち「自分で自分を、よりよく支配する」ことだ。このような「自主性」がひとりひとりの子供の内奥に育ってこそ、この子供たちは、真実、この国の主権者となることができる。このような子供たちによってこそ、この国の将来は、よりよく方向づけられ、より豊かに創造されるであろう。

私たちは、このような考え方に立って、自主的精神にみちた子供のあらわれとして、めあてをもって、生き生きといつまでも「ねばり強くやりぬく」姿を想定し、本校の健康教育を、見直し、計画し、組織し、実践し、再検討して進めてきた。

2. 学区の概要

国鉄東海道本線浜松駅南、都心部商業指定区域、竜

禪寺・寺島・北寺島の3町、戸数約3,000、人口約9,000人。

① 職業別から見た状況

会社勤めの勤労者	48%	商業を営む者	13%
工業を営む者	10%	公務員	7%
土建業	7%	サービス業	7%
その他	8%		

共働きの傾向が強い。

② 家庭環境から見た状況

片親の家庭が9%もあり、その約80%が母子家庭である。経済的にめぐまれた家庭も多い反面、めぐまれない家庭もあり、格差が大きい。

③ 教育に対する関心の状況

一般的に教育に対する熱意は高く、PTA社会教育団体の活動は極めて活発であるが、その反面、関心のうすい家庭も目だつ。

3. 学校の概要

本校の開校は大正14年4月。

5. 教育目標具現の方法

教育目標具現の方法としての教育構想は、要約すると次の図のようになる。児童自身の自主的な努力による面、教師自身が相互に連携を図りながら努力する面、家庭の親、地域の人々が自覚し機能を生かしながら活動する面との、連帯と相関の中で、自ら育つ自主性豊かな児童を期待しているのである。

4. 教育目標

いつまでも自らを、育て高める子供として
ねばり強くやりぬく子

●思いやりのある子

具体目標 ●元気な子

●深く考える子



6. 本校の特徴的活動

① 意欲に満ちた学習づくり

意欲に満ちた学習を展開するために、教材のしぐみを見極めて、学習過程の基本的な段階にどのように位置づけながら、学習を進めたらよいかの内部手順を押さえてきた。又、さらに深い思考を促し、学習効率を高めるために学習集団のふん囲気づくりや、学習のきまり、しつづけを身につけさせるよう努めた。

- 学年発達に応じた基本話型、ハンドサイン
- 聞く、書く、話すに応じたよい姿勢
- 起立・着席の正しい姿勢

② 自らの力で築く学校生活

- 体力づくりでは



- おはようマラソン、部活動

7時35分から始業5分前まで、マラソン、金管バンド、サッカー、ミニバスケット等の活動が生き生きと展開される。

- 竜の子なわとび

22段階による級・段位制、月1回の昇級昇段審査、本校の校技として定着している。

- 保健面では

- 健康カードによる自己評価
- バランス教室での自主的運動（肥満児）
- う歯の完全治療、ぎょう虫の完全駆除
- 視力予防教室、望遠訓練、鉛筆B、HB使用
- 側弯症対策として姿勢体操、姿勢尺、鏡
- 食後のうがい

- 学校給食では

- 芝生給食（野外）
- 栄養診断票
- 誕生給食会（毎月）
- 栄養クイズ
- 交換給食（低・高学年）



（芝生給食）

③ 好ましい行動をめざす生活づくり

- 生活時間帯づくり
- 竜小よい子の自己評価
- 竜の子仲よし会



（竜の子仲よし会奉仕活動）

全校区を22区に分け、全児童63班、近所同志10人前後のたて割りで編成、地域での体力づくり活動、奉仕活動、遊び等、意欲的な活動を展開し、昭和55年3月、浜松市長より善行賞を受けた。この組織は災害時の避難組織にもなっている。

7. 学校安全と環境衛生

① 学校安全

子供が自らの力で安全生活を創り上げることを主眼にしながら、地域においてはPTAを中心に地域の人々が、子供たちの生活を見守り、活動や行動が安全でより健康なものになるよう活動している。

- 安全点検日（毎月20日）
- 児童会安全委員会（毎月第1木曜日）
- 通学路の安全点検と交通安全指導

- 交通教室・児童安全リーダーと父母と交通安全を語る会等の特設
- 地域防災組織との連携
地域防災組織の中に児童係を設け、PTA安全委員会・竜の子仲よし会組織の一体化と地区避難所を定めた。

② 環境衛生

子供たちが自由に調べ、試し、働きかけると受け応えが返ってくる。そのような創造性判断力を培う場としての環境づくり。

- おはようマラソンコースづくり
- 花だんづくり ●壁画づくり
- 掲示づくり ●地域の美化活動

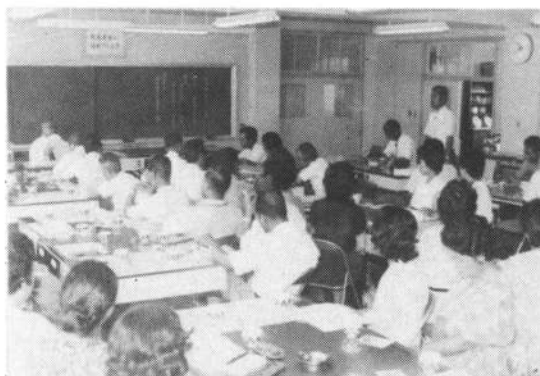


(花だんづくり)

対策をたて、それぞれの機能を生かして実践活動を展開する中で、共に成長することを期待している。

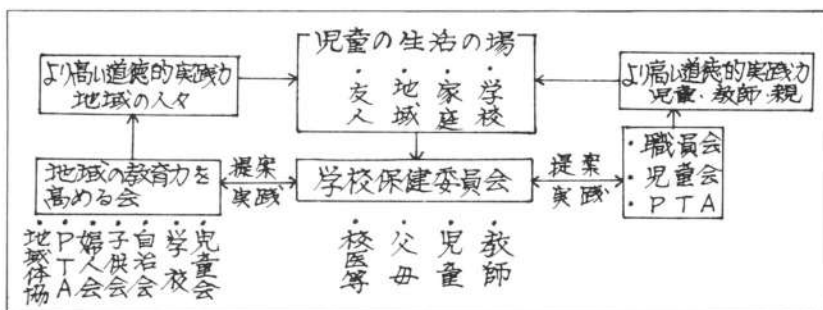


(竜の子運動会)



(地域の教育力を高める会)

8. 学校保健委員会の組織と活動



- ふれ合い家族健康運動、家族保健委員会
毎月1回、児童が司会、家族ぐるみの実践を定め自己評価票に記入、提出する。
- 地域別保健懇談会 (PTA・学校)
- 地域の教育力を高める会
児童の姿を全学区で探り、地域総ぐるみの目標・

9. おわりに

紙面の関係で実践の一部を、項目をら列する程度にしか述べられなかったことを、おわびします。昭和55年度「健康優良学校全国特別優秀校」の受賞を、本校の「健康教育元年」

ととらえ、諸賢のご指導を仰ぎながら、児童・職員・PTA・地域一体の懸命の精進を続けていく覚悟を、あらたにしている。



自分の健康は自分の手で —地域ぐるみの健康教育—

愛知県岡崎市立岡崎小学校

校長 杉田 富貴男

1. はじめに

この度、はからずも昭和55年度健康優良学校全国特別優秀校表彰の栄に浴し、職員一同決意も新たに今後一層の充実を期し、努力している。

本校は、テーマ展開のために地域ぐるみの協力を得て健康教育を推進してきた。特に心身両面の健康をねらい、情操教育を核にして岡小の教育を進め創意と努力を積み重ねてきている。

2. 地域の概要

岡崎市の南部丘陵地帯に囲まれた約2200戸の校区では区画整理が全面的に進められ年々世帯数が増加してきている。

岡小の教育は、質実剛健の気風、体操学校としての

伝統の中ではぐくまれ、それが地域ぐるみの健康教育を進める原動力となり学校教育への協力となってあらわれている。

3. 学校の概要

明治6年開校、大正末期から昭和の初期にかけ日本一の体操学校としてその名を馳せ、全国から参観者が来校した。以来、体育・給食の研究発表会が数多く行われてきている。

体位・筋力の劣ることから昭和46年より業間運動を開始し、現在まで毎日続けている。

現在の校舎は、昭和52年3月区画整理の実施で現在地に全面移転し4年目、安全健康的、使いやすい環境を目標に建設・整備を進めてきた。

健康教育も着々と進み昭和50年には県優良学校特選、54年県大規模校最優秀校、続いて55年今回の表彰を受

けた。

4. 本校の教育目標

地域、児童、学校の実態から“望ましい人間像。を次のように考え、教育課程編成の背骨としている。

- (1)すこやかな子ども (健康、礼儀、親切)
- (2)心豊かな子ども (思いやり、みずみずしい感性)
- (3)しょうぶな体の子ども (忍耐、鍛練)

◎本校の健康教育の進め方

(1) 基本的な考え方

健康教育→岡小の教育→人間の教育

健康教育の実践は、岡小の教育を展開することで達成される。これは即人間教育に通ずるものである。その主な内容は次の通りである。

健康教育	学 校	家 庭	地 域
(1)心身の健康と体力づくり (1)(3)	●教科体育 ●業間運動 ●遊び ●声の便り ●たてわり活動 (給食、登校、仲よし常会) ●教育相談	●個人・親子 体力づくり ●声の便り ●遊び	●友達との遊び ●グループでジョギング ●子供会活動(ソフトフット) ●学区民体育祭(全) ●卓球●バトミントン ●新年歩け歩け大会
(2)豊かな心の育成 (2)(1)	●児童集会(全校・学年) 岡小タイム ●朝の歌 ●さし木、一人一鉢		●おはよう清掃
(3)健康で安全な生活 (3)	●保健体力コーナー ●歯みがき(333方式) ●登校実地指導・児保、委	●登校現地指導 ●歯みがき	
(4)楽しい学校づくり (2)(1)	●岡小タイム(七夕まつり、お月見の会、6年生を送る会) ●児童集会		
(5)地域との連携 (3)	●学校保健委員会	●地区別 こん談会	

5. 特徴的な活動

(1) 心身の健康

ア “声の便り。で心の健康を

親・子・教師の意志の疎通を一層密にするため担任から各家庭へ毎月“声の便り。を送り、心の健康への助けとしている。

○発行 月1回

○テーマ 編集委員会で学校統一テーマ1、学級独自のテーマ1、カセットテープへ担任の声で10分程度録音

○方法 録音テープを10本位にダビングして各家庭へ希望の日に貸し出す。家庭ではテープを家族みんなで聴き、提起されたテーマ内容について話し合う。普段家族の対話不足を補ったり、学校生活、学級での子どものようす等に話がはずむ。学校へは“声の便り返信。として対話の感想や意見が集まり、教育相談の材料や次回声の便り編集の参考にしている。

イ体の健康

○業間運動

●ねらい

遊びの拡大とよく動くことのできる体づくり、体力づくりへの態度習慣化をねらう

●計画 <13分以内>

4月 一なわとび業間

6～11月 一ローテーション業間

12月～3月一ミックス業間(マラソンとなわとび(1～2月) 一(業前マラソンとする)

4～11月 一月曜日はダンス業間

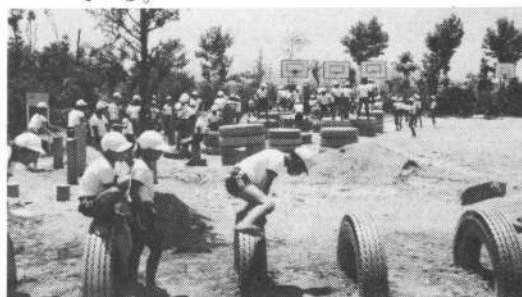
●方法

一なわとび業間

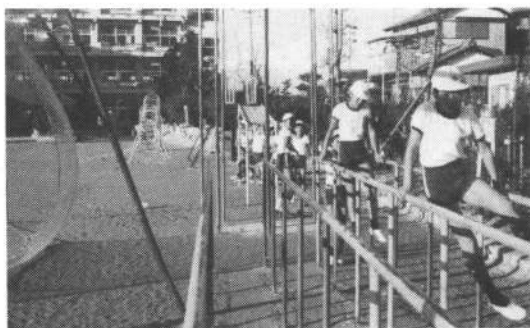
児童たちに親しまれている曲にあわせて4～5種類を跳ぶ

一ローテーション業間

1週間毎に学年がD-E-F-A-B-Cと区域や内容をローテーションし各区域内4種のうち2種目(1日に)自主運営の方向へもっていく。いろいろ工夫した遊びを取り入れるようにしている。



(固定施設を使ってローテーション業間)



(サーキットコースで準備運動)

(2) 豊かな心の育成

ア 朝の歌

毎朝、全校朝の歌、学級朝の歌（始業前10分）で気持ちよい1日のスタートがきられる。

- 曲目 季節感、好み、覚え易さ等を考慮した年間計画に従って選曲される。
- 方法 1ヵ月間同じ歌を歌い、なれてきたらアレンジして歌う。

イ 児童集会で大合唱

全校児童が時と所を同じくして歌い、岡小の一員としての自覚を高めながら心のふれあいを深めたり、楽しい音楽経験をさせることを目指している。

- 運営 児童会役員、集会・放送委員、児童会の集会活動として月1回(第4週)1単位時間実施



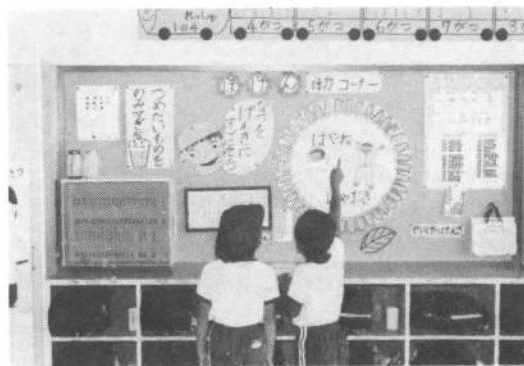
(児童集会で大合唱)

- 主要内容 学級発表、リズム遊び、体験・研究発表、合唱、委員会の連絡ほか。

(3) 健康で安全な生活

「自分の健康は自分の手で。」を合言葉に児童の健康・保健・安全に対する意識を高め、その習慣形成を図るため「保健体力コーナー」を各教室の一角に設けている。

- このコーナーの経営では、次の点に留意している。
- ア 月の保健安全目標をテーマにし、各学級で実態をふまえた実践目標を決める。
 - イ 実践を奨励するため興味・意欲・関心を高めるとともに持続性のあるコーナー経営をする。
 - ウ 習慣化を図るため、掲示物は継続、記録式方法を取り、美的で楽しいものにする。



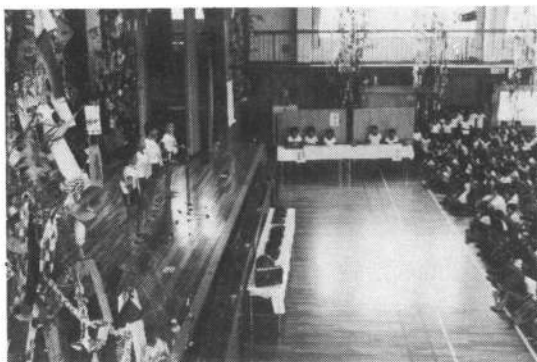
(保健体育コーナー(1年7月))

(4) 楽しい学校づくり

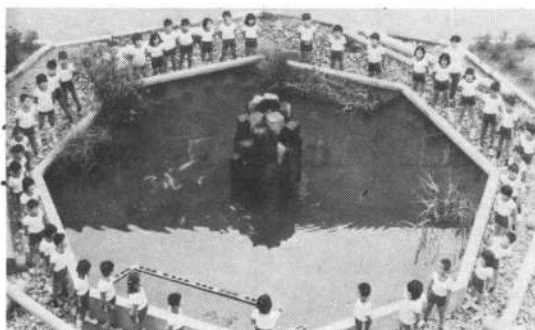
児童集会活動以外に、ゆとり時間「岡小タイム」を使って互いの理解と友情を深めながら協力しあって楽しい学校づくりを目指している。

○年間計画

- 全校岡小タイム
 - 1学期－七夕まつり、2学期－お月見の会、3学期－6年生を送る会
- 運営 児童会役員、各委員長、集会委員
- 参加 全校児童
- 方法 木曜日の午後2単位時間を使って、子どもたちがアイディアを出しあって自主運営をしている。学期1回の盛り上がりの大きい楽しい行事となっている。



(七夕まつり)



(岡小の泉を囲んで朝の歌)

(5) 地域との連携

子どもたちの心身ともに健やかな生長を願って学校・家庭・地域社会が一体となり学校における保健活動、体力づくりはもとより、地域における諸活動も積極的に実践している。いわゆる地域ぐるみの健康教育を目指している。

ア 学校保健委員会

学校保健の推進向上を図るため、この会で学校・家庭・社会生活における保健安全活動や諸問題について話し合い、その解決をはかる。あわせて学区民全体の健康への意識高揚をねらっている。

○運営 定例学校保健委員会 学期1回、その他必要に応じて開催する。

○議題例 ・健康診断を終わって ・むし歯の予防
・体力づくり ・夏休みの生活 ・肥満、やせすぎについて

○参加 校医さんを初めPTA、学区諸団体の方々の出席が多く、常時70%以上を越す熱心さであった。

イ 地区別懇談会

年2回、会場は各町集會場で地区毎に夜開催(各地区90%以上の出席)職員PTA役員と地区の父兄とが膝を突き合わせ懇談会を行っている。

議題は、学習から交通安全、生活、体力づくり、P



(地区別懇談会)

T A活動の問題まで、学校の保護者会に出ない内容まで幅広く扱われ、しかも活発熱心な懇談が行われた。

こうして学校と地域PTAとの意志の疎通がはかられ有意義な会となっている。



(声の便りで話し合う家族)



一人一鉢づくり
苗の定植

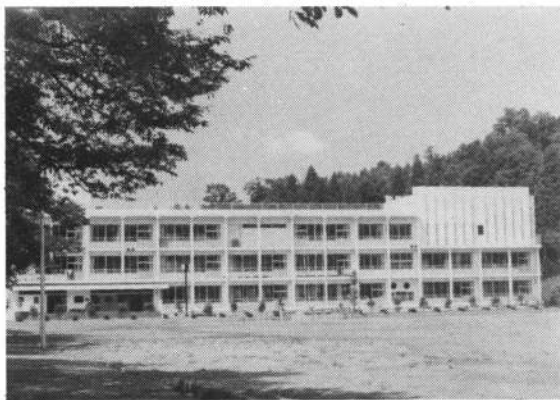
5 おわりに

今日までの歩みが、この度認められ、はからずも受賞の榮譽に浴し、過分な審査評をいただいた。その言葉を思い起こしながら、今から、岡小の歩む道を見定め、新しく一步をふみ出し子どもの真の健康教育を追求し推進していこうと心に誓っている。

審査評

『教職員と地域の人びとが協力し独自の工夫と努力で心もからだも、すこやかな児童を育てています。とくに情操教育を核に据え環境整備をはじめ多彩な活動の一体化をはかる健康教育の実践は他の学校の模範である。』

(文責 岩瀬光義)



新潟県東頸城郡牧村立牧小学校

校長 山 川 嘉 則

豊かな心

たくましい子を育てる牧小の教育

—自らつくる健康生活—

1 はじめに

牧小学校が健康教育に取り組んだのは、昭和48年であり、当時は木造の老朽校舎であった。

改築工事が始まったのは昭和51年で、現校舎を取り壊しながら元の位置に建築するという最悪の条件で、騒音と危険にさらされ、屋外運動場も建築資材置場に使用され、体育の授業にも大きな制約を受けた。

しかし、この悪条件は困難を克服しようとする創意と工夫を生み、不屈の意志を養うのに絶好の機会となった。

以来、確かな学力に支えられたくましく心豊かに生きていける子どもを育てたいと教育活動の全面に健康教育を位置づけ、実践を積み重ねてきた。

2 当校の概要

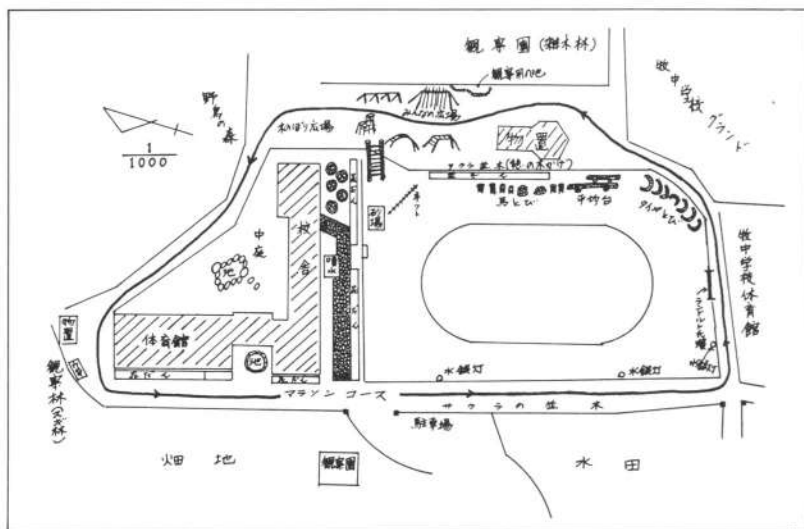
信越線高田駅より東へ約17kmへき地1級地にある本校は、牧村の中心に位置し村内、郡内の各学校の各種会合や、研究推進などの役割りをになっている。

昭和53年、村当局は村の中心校としての期待と健康教育への願いをこめ、巨額の経費を投じ、北陸随一ともいわれる校舎を建築した。

新装なった校舎は、緑豊かな自然と保健衛生面の配慮と、教育機器を用い学習の効率化を図る近代的な施設設備を整えている。

また、校地も新しい感覚で環境づくりにつとめ、体育施設や自然に親しむ施設などが改善充実されている。

児童は、農山村にみられる素直さと純朴さを持ち、校区民は、村の中心校を持つことを自負し、労を惜ま



ず協力すると同時に学校の教育に理解と期待を寄せるなど深い関心をもっている。

3 受賞を支えた力

(1) 研究の積み重ねで高い学力

「基礎的な計算力、問題解決の向上を目指す算数の研究」「運動能力の向上を図る体育の研究」「のぞましい人間関係の育成を図る学校給食の研究」「テレビを効果的に授業に位置づける放送教育の研究」と数多い指定研究が今も生きている。

(2) 活動する学校保健委員会

- 昭和46年に学校保健委員会を設立、校舎改築に備え、危険防止など児童を取りまく環境整備の活動開始、53年、地域に根ざし子どもを取りまく地域社会の健康観を確立し、健康な村づくり運動とともに歩むために役場住民課などを含め、委員会の組織を拡大する。

- 昭和49年「牧村子どもの歯を守る会」を結成、フッ素洗口、歯みがき運動の活動を開始する。

新潟大学歯学部からの指導と協力を得て、年2回の検診、講演会、座談会を持ち予防から治療まで一貫した歯科衛生活動を展開し健全歯率63%になる。

(3) 全児童、教職員の情熱と研修

- 全職員を指導計画部、環境整備部、資料調査部に組織し、給食の指定研究、学校保健研究、教育機器の研究と3本の柱を調和させ、チームワークを取りながら精力的に進める。

- 視聴覚、健康教育と全国的に高いレベルにある先進校の研究会には全職員が参加し、自校の研究に生かすよう努力する。

(4) 効率的な活動でPとTの信頼

- 能率的な会議の進め方、決定した事項を徹底させるために、各係りの働きかけで無理なく無駄なく継続できるPTA活動の展開

- 環境整備のために半日の奉仕作業を依頼する。

(5) 子どもと共に作り出す環境

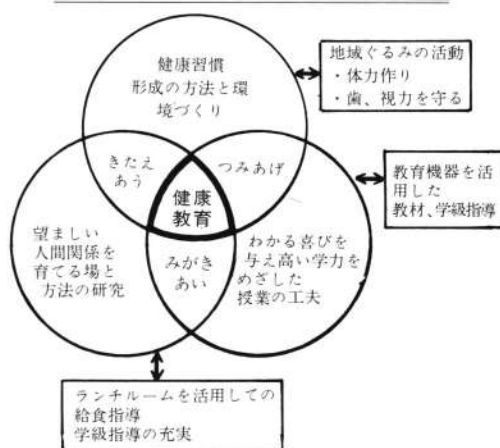
- 学校衛生活動優良校、県学校環境緑化コンクール入選、県花いっぱい小中学校コンクール努力賞と数多い受賞。
- 雪どけを待って緑の丘マラソンコースの復元、野鳥の森、走り幅跳び用砂場、みんなの広場づくりなど努力と汗で作る環境

4 牧小の教育

(1) 健康教育を推進する3本の柱

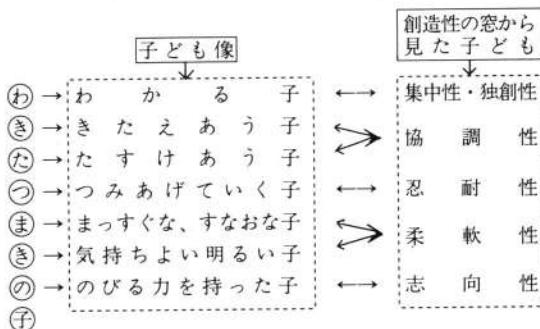
豊かな人間性とたくましい気力、体力を持ち確かな学力を身につけさせる牧小の健康教育は、それぞれ調和を保った三つの方向から、厳しくきたえ、基礎を積み上げる努力をさせることによって進められる。

調和と協力で進む牧小の教育



(2) 牧小の子ども像

豊かな牧の自然の中で育つ心と頭とからだの健康な牧の子を次のように考えている。



(3) 子どもを育てる諸活動 (12ページ参照)

5 特徴的な活動

上記の諸活動の中の一部を述べてみたい。

(1) ゆとりと充実をねらう特別活動

- 大空の時間

削減で生じたゆとりの時間の一部は各担任の創意



年間計画表

分野 学年	牧 村 つ て ど ん な 村	仕事できたよう 心 と 体	みんなでつくり 心 と 体	力 を 合 わ せ 助 け あ お う	見 童 会 ・ みんなの 広 場
1年	○飯田川で石ひろい ○秋をみつけよう	あさがおの花を さかせよう	おはなしづくりをしよう	友だち集めてあそぼう	4月 1年生おめでとう大会 5月 みんなで作ろう大きなこいそ
2年	○魚とりをしよう ○秋の虫とりをしよう	ひまわりを育てよう 教室をきれいにしよう	牧村の昔話集をつくろう	自分たちで遊びをつくろう	6月 研究発表会・球技大会 7月 ほしまつり・まつりだわっしょい
3年	○牧村の季節だよりを しらべよう	へちまを育てよう みんなの広場をきれいに	学級音楽会をしよう	なかま勉強をしよう	8月 みんなの広場で遊ぼう 9月 研究発表会をしよう
4年	○村の昔の生活を しらべよう	じゃがいもを育てよう うさぎごやをきいかにしよう	人形劇をしよう	漢字・計算大会をしよう	10月 運動会をしよう 11月 音楽・げきコンクールをしよう
5年	○村の地形を しらべよう	枝豆をつくろう 校庭をきれいにしよう	自分の歴史をまとめよう 音楽会の練習をしよう	自由研究発表会をもとう	12月 クリスマスお楽しみ会 1月 スゴロク大会
6年	○牧村の古ふんを しらべよう	床みかき・心みかき 学校を花一杯にしよう	陸上記録会の練習をしよう 卒業文集をつくろう	小学校・漢字・計算に ちょう戦しよう	2月 節分・雪まつりをしよう 3月 6年生 きよなら会



収穫 学級園

工夫にまかされ、郷土を見直す活動、生産的活動、文化創造的活動、遊び教育相談的活動の4つに分け実践している。

○ 子どもが主役のみんなの広場

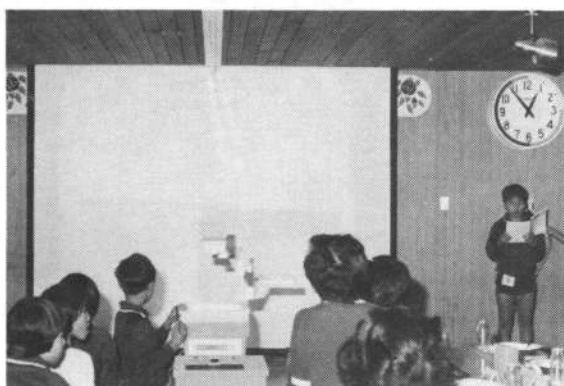
毎月1回の児童集会は、「教え、学び取る」ふれ合いの大切な時間に、綿密な計画、準備、協力、奉仕の大切さを体得する場になる。

○ 生き生きと活動する委員会活動

月初めの特設時間は各月の反省と計画に当て、他は常時活動を行う。給食時程の工夫で生じた昼の待

ち時間、食後の時間は各委員会の発表の時間に当てる
この時間は子ども達に、励ましと賞賛を与え、次の活動へのバネになっている。

自主番組編成



食後の発表リスト



待ち時間
の放送

		食後の発表リスト 4月～6月			△印は給食のない日
曜	委員会	内 容 (題)			
		4月 2週	4月 3週	4月 4週	
月	図 書-	△	委員の紹介、使用のきまり	本の題名クイズ (OHP)	
火	給 食-	マナー指導	栄養板	クイズ (ミートソース)	
水	放 送-	インタビュー (新任職員)	インタビュー (植木先生)	2年生学級めぐり (クラス)	
木	給 食-	パンとねずみ (紙しばい)	牛の大力 (OHP)	栄養板 (4年生に)	
金	保 健-	マナー指導	保健室へ来た時のきまり	定期健康診断の結果	
		4月 5週	5月 1週	5月 2週	
月	図 書-	本を大切に (紙しばい)	△	読書量の調査結果	
火	給 食-	△	今日の給食について	修学旅行のインタビュー	
水	放 送-	6年生学級めぐり (手品)	4年世界のあいさつ (動作化)	1年生学級めぐり (楽しいこと)	
木	給 食-	牛乳からできるもの	チーズについて (OHP)	丈夫になった王子 (紙しばい)	
金	保 健-	△	5年の保健活動 (OHP)	保健クイズ	
		5月 3週	5月 4週	6月 1週	
月	図 書-	△	本の題名合わせ	図書室のきまり (OHP)	
火	給 食-	牛乳の性質 (OHP)	野菜クイズ	砂糖のクイズ	
水	放 送-	5年生学級めぐり (OHP)	△	△	
木	給 食-	くだ物クイズ	縦割りについて	給食についてインタビュー	
金	保 健-	6年保健活動 (インタビュー)	虫歯について (紙しばい)	4年生の保健活動	

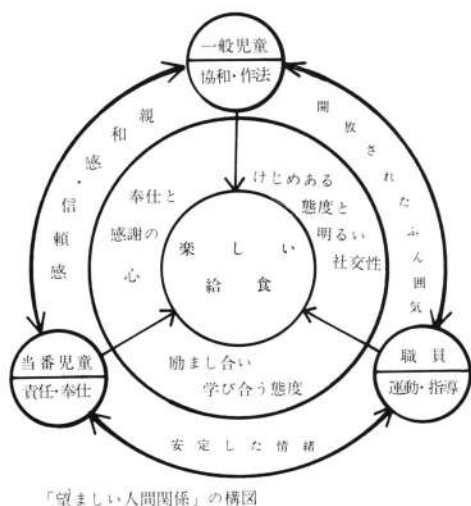
(2) 全校一斉のランチルーム給食

○ 当校の基本的な考え方

当校では「のぞましい人間関係の育成を図る給食指導」を次のように考えている。

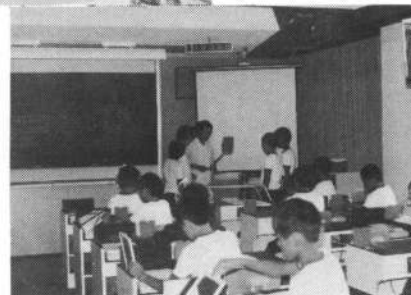
目標の達成のための方策として、児童の内面化、態度化を図る学級指導を徹底するための時間の確保

と資料の準備、充実したゆとりのある給食時間の設定 (待ち時間、食後の発表も含めて50分) 児童会の組織を生かした奉仕活動、人間関係の輪を広げる給食形態の多様化 (学級、通学班、隣接学年、全校縦割り) 明るい心身を育てる環境づくりを工夫している。



ランチルーム
給食

本時展開案の
上に機器室
での学習の
写真を重ねる



(3) わかる喜びをもたせる学習指導

教育工学的手法により目標を明確にし、一斉学習の中に個別学習を取り入れた学習過程を組むことにより、わかる喜びを持たせ自ら追求しようとする子どもを育てる活動を進めている。

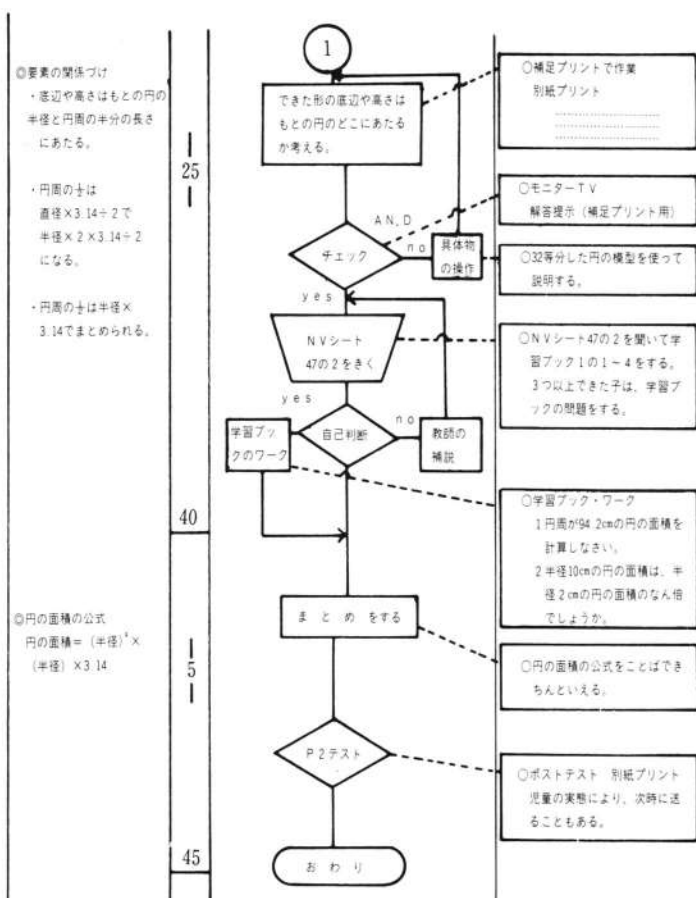
(4) 予防から治療まで一貫した歯科衛生活動

当校における歯科衛生活動の重点は、新潟大学歯学部との協力を得、次の5項目に要約される

- 継続的に行うフッ素洗口
- 定期、臨時の歯科検診と治療の徹底
- 給食後の全校歯みがき、親子歯みがき
- 食生活の工夫（バランス、甘味制限）
- 特設学指の時間確保で保健指導の徹底

地域の歯科衛生に対する切実な願望が根底にあるだけに地域ぐるみの取り組みがなされ、その結果は治療率100%、永久歯の健全歯率21%（昭和48年）から63%（現在）と目に見えてよくなってきている。

〈本時展開案〉



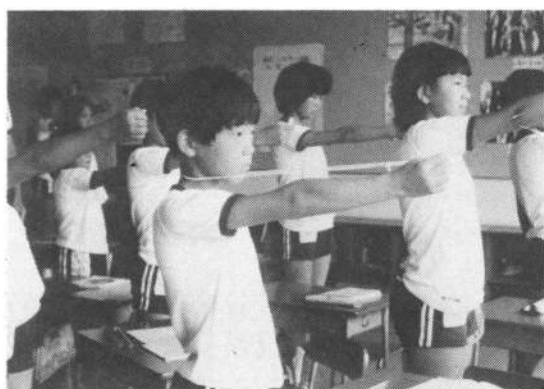


(歯みがき)

(5) 健康な目を守る運動

学期1回の視力測定で異常者を発見し、専門医を交えて適切な指導を行う。また、目に対する意識の高揚を図るため、健康コーナーの測定器を利用した児童同士の測定や学級指導、学校保健委員会の充実、毎日3分間続ける眼球疲労防止と気分転換を図る望遠訓練、各種環境整備等の活動がある。

昭和51年、片眼または両眼の視力が0.9以下の者が全児童の18%を占めていたが4%に減少するほどの効果をあげている。



(望遠訓練)

6 その他の活動

(1) リズムとゆとりのある牧小の一日

集団登校、反省、朝の美化活動、みどりの丘の朝のマラソン、うがい、学習、給食、歯みがき、業間体育、清掃、そのどれもが明るいリズムに乗り、教師の手を待たずに自主的に生き生きと展開されるほど定着している。

(2) 教師のアイデアで健康良習慣の形成

体力づくりトリムプログラム、ウルトラマンカード、歯みがきカード、健康目標カード、読書カード、よい子の木等、教師のアイデアによる手だては、子ども達を楽しみながら目標に到達できるよう励ましている。



(よい子の木)



(みんなの広場)

(3) 児童理解と個別指導の徹底

給食の問題児に対しては、給食指導個別カルテを、精神障害児には全職員共通理解で観察・指導を、学



(交通安全)

力遅進児には特殊学級で個別指導をと一人ひとりの子どもが劣等感や孤独感を持たず安定した気持ちで精いっぱい自己実現できるよう配慮している。

憩の木かげでの教師と子どもの語らい、「先生、アノネノート」「声のポスト」と子どもの声を聞く場の設定は、学校全体を明るく、暖かいものにしていく。



(ターザンロープ)

(4) 明るく努力を惜まない牧小の教職員

心も体も健康な職員は、健康な子どもを育てる、創造力と和と活力に溢れる後ろ姿を子どもに見せようと研修の他に次のような活動を行っている。

- 健康の日を毎月1回設定、血圧測定、健康相談等で病気の予防と早期発見、治療。
- 健康に関する各種の保健情報の提供。
- 交通安全のための学習会（自転車、バイク、自動車等の正しい知識と技術の習得）
- 教職員の融和を図るため、毎月1回職員レクリエーションの日の設定
- 健康カードの作成、人間ドックやへき地検診への積極的な参加を通して自己の健康管理の徹底。

(5) 効果をあげる学校保健委員会

数多く会合を持ち話し合うことは好ましいことであるが、お互いに忙しい現代社会にあって、度重なる学校保健委員会の開催は、参加者の限定、減少、内容の不徹底、一部の委員による学校保健委員会という問題を生じやすい。

そこで当校では、無理なく、無駄なく継続でき、多数の意見を聞き、地域ぐるみのものにするために次の配慮をしている。

- 起案……年間計画に基づき、小委員会で問題を掘り起こし提案事項を決定する。

- 研究 } …… 緊急の場合を除き、年4回開き、提案された問題の解決方法を焦点化させた話し合いにより見出す。

参加者は議題により決める。

- 家庭への浸透 } ……
 - ・ 各種広報を通じて内容の報告
 - ・ 実践活動の報告（親子で作るポスター手紙等）で高まりを図る。
 - ・ アンケートによる評価
 - ・ 広報で評価報告、校内展示等で発表会を持ち、情報交換をする。

7 おわりに

牧小の健康教育についてその概要を紹介した。私達は、立派な校舎にふさわしい牧小の子どもを育てるために特別なことをするのではなく、どこの学校でもできることを子ども達と精いっぱい努力してきたに過ぎない。

昭和55年度、健康優良学校全国特別優秀校（小規模校）として表彰を受けたのも、現在の学校教育に課せられた課題を直視し、地域と子どもと全教職員のすばらしいチームワークの成果だと確信している。

表彰状には次のように記されている。

『あなたがたの学校は、教職員と地域の人びとが協力し、独自の工夫と努力で心もからだもすこやかな児童を育てています。とくに地域社会あげでの支援のもとで豊かな表現力と創造力を育てる健康教育の展開は、他の学校の模範であります。ここにその輝やかない成果をたたえます』

今回の表彰を新たな出発点とし、更にたくましく、心身共に健康な子どもを育てるため精進を続けたいと考えている。



知・徳・体の調和のとれた 健康教育

—特にふれあいの教育をめざして—

三重県志摩郡阿児町立甲賀小学校

校長 松村 藤太郎

1 はじめに

戦前、この地区は徴兵検査で甲種合格が、県内でも目立って多かったと聞いている。つまり、昔の日本軍向きの、背は高くなくてもがっちりした体格の若者が多かったようだ。それが戦後、全国的に子供たちの身長が大幅に伸びて、ここの子のいわゆるズンドウ型はえらく見劣りがしてきた。（現在でも低中学年の身長は全国平均を下まわる者が多い。）

約15年前、当時たまたまスポーツテストの結果も、県平均・全国平均を下まわる者が多かったという単純な動機、そして児童の性格も柔順ではあるが引っ込み思案、自主性・積極性に乏しかった。

昭和41年2月、今のモダンな新校舎竣工を機に、以上の動機等を踏まえて、当初体力づくりと学校保健を二本の柱として取り組み、以後15年間、健康教育の道を地域ぐるみで歩んだ。

2 学校及び地域の概況

阿児町甲賀地区は、志摩半島の南岸、大王岬と安乗岬のはほぼ中間にあり、太平洋の波濤が打ち寄せる白砂の浜に面している。校区の世帯数は566戸、人口2,323人。農漁業が中心であったが、現在は大工・左官を中心とした建築関係業者と公務員・会社員等で約6割を占めるようになった。経済的にはよく似かよって貧富の差は余り見られず、教育には非常に熱心な土地柄である。

本校は、明治9年に創立、昭和50年に100周年を迎えた歴史の古い学校である。昭和41年、現校舎の竣工を機に、体育研究に学校保健の研究に、そして知徳体の調和のある健康優良学校の道へと、実践と研究の努

力を積み重ね、55年11月、全国特別優秀校（日本一）の賞をいただいた。

児童数207人（男111人、女96人）、6学級、養護教諭、事務職員を含め職員数10名の小規模校である。

3 研究と授賞の歩み

- 41. 2. 28 現校舎竣工、校歌・校章等制定
- 42. 11. 8 体育研究発表会（県指定）
- 43. 10. 7 保健体育指導研究により全国表彰
- 44 ~ 45年 健康優良2年連続表彰（県教委）
- 45. 11. 5 学校保健研究発表会（県教委）
- 46. 9. 1 健康優良学校表彰（県教委）
- 47 ~ 49年 健康優良連続3年県一（県教委）
- 50. 3. 28 運動場拡張工事竣工（3840m²拡張）
- 50. 9. 1 健康優良学校三重県一（県教委）
- 50. 11. 3 全日本特選優良学校（朝日新聞）
- 51. 3. 3 創立百周年記念式典挙行
- 52. 9. 1 健康優良学校三重県一（県教委）
- 52. 11. 3 全日本特選優良学校（朝日新聞）
- 53. 5. 21 交通安全優良学校（県交通安全協会）
- 54. 10. 20 学校安全文部大臣表彰（文部省）
- 54. 11. 21 日本PTA全国協議会表彰
- 54. 11. 30 文部省指定むし歯予防研究発表会
- 50 ~ 55年 自転車乗競技地区大会6年連続優勝
- 55. 9. 1 健康優良学校三重県一（県教委）
- 55. 11. 3 健康優良全国特別優秀校（朝日新聞）
- 56. 1. 20 全日本交通安全協会会長表彰

4 本校の教育目標と教育努力点等

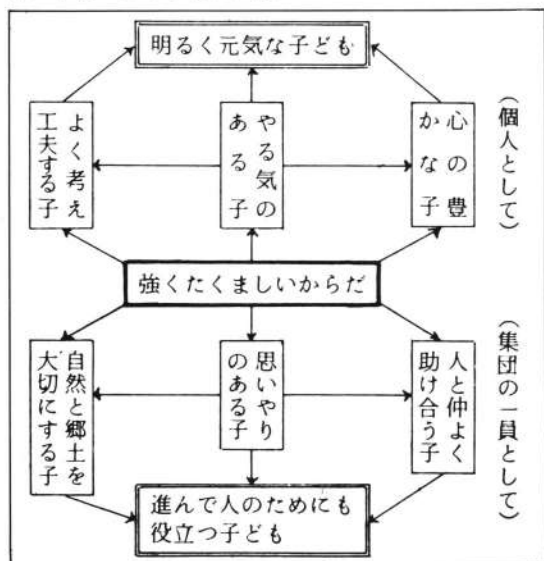
長年にわたる本校の研究実践の実績を常に問い直し

つつ、知・徳・体の調和のとれた人間づくり、学校づくりをめざして、創意と努力を傾け、実践を積み重ねてきた。本校の教育目標と望ましい児童の姿は、次の通りである。

(1) 教育目標

長年にわたる本校の研究実践の実績を問い直し、知・徳・体の調和のとれた人間づくり、学校づくりをめざして、創意と努力を傾け、実践を積み重ねよう。

(2) 本校のねらう児童の像



(3) 昭和55年度教育努力点

- ① 明るく元気な子どもを求めて
 - (i) 強くたくましいからだづくり
 - (ii) 自ら気づき、考え、実践する子ども
 - (iii) 自分で自分のからだを守る子ども
- ② よく考え、くふうする子どもをめざして
 - (i) 進んで学ぶ、やる気のある子ども
 - (ii) ひとり、ひとりを伸ばす指導
 - (iii) 授業をささえる条件の整備と、授業の効率化
- ③ やる気とより豊かな心の子どもを育てるために
 - (i) ゆとりと、ふしと、感動のある学校づくり
 - (ii) だれでも、どこでも、いつでも守らなければならない基本的な生活指導の徹底
 - (iii) より美しい心づくりと学校づくり

(4) 本年度の研究

- ① 知・情・意・体の調和のとれた健康教育の推進
- ② むし歯予防の継続的実践
- ③ 1人1教科研究の積極的推進

5 本校の特徴的な教育活動

——たくましい体、ゆたかな心—— こんな子どもを育てるために、知・徳・体の調和のとれた全人教育を健康教育とふまえ、長年実践してきた。本校が今年度はからずも全国特別優秀校として受賞できたのは、①15年間の継続努力、②地域ぐるみの力強い活動、③ふれあい教育の実践等によるものだ、と思っている。そこで、本校の特徴的な教育活動の実践について簡単に述べる。

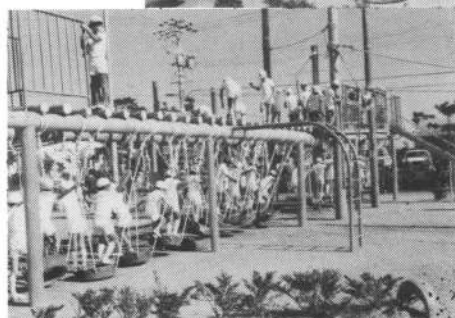
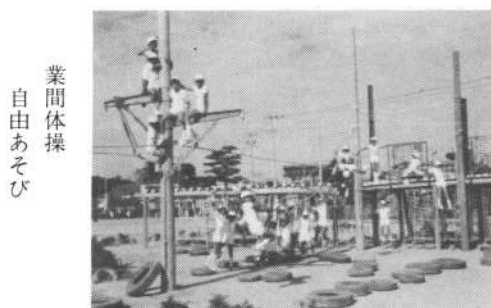
(1) 10年以上も継続努力していること

① 晴雨にかかわらず続ける業間体育

昭和41年に、児童の興味と体力の実態に見合った「なわ体操」を始め、45年からは「棒体操」に、さらに50年度より現在の「ボール運動」中心の業間体育に切り替えて、今日に至っている。業間の短い時間を生かして、全校児童が心を一つにし、集団の一員としての自覚を高めさせると共に、自己の力を最大に発揮し、合わせて体力づくりの場としている。業間の時間の流れは、次の通りである。

II 限	5分	4分	6分	10分	5分	4分	III 限
	準備音楽	ボール運動	サーキット運動	自由遊び	手洗い	目の体操	

目の体操を含め35分間、音楽によってリズムカルに運営されている。なお、運動場が使えない時は、「雨の業間体育」を低・中・高学年ごと、遊び等を加味して楽しい体力づくりに努めている。





(業間体育のボール運動)



(上まで競争だ)

② 毎日走り続ける自主トレーニング

当初は全く自主的に、ある学年が日本一周を目標に走っていたが、49年頃から全校児童が「自主トレーニング」として走るようになった。52年頃、早朝から運



(みんな朝のかけ足)

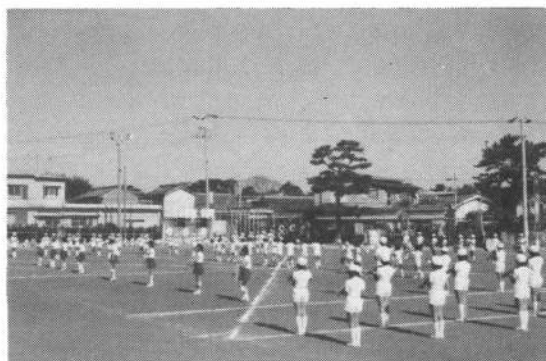


(素足で自主トレーニング)

動場を100周以上も走る児童が出るなど、過熱化したので、53年度から時間も制限し、現在のもっと身近な「伊勢湾一周」を目標とした。又、運動場や足洗い場を整備して、54年度から裸足で走るとか、記録の記入の仕方を簡単にする等、年々改善を加えた。

現在、毎朝7時30分から8時までを「自主トレーニング」時間とし、その後10分間を「朝のかけ足」の時間として、年間通して白の半袖・短パン姿で全員一斉に、教師も共に走っている。一周150mの運動場2000周で、伊勢湾一周300kmを完走することになり、年間約30名の完走者を数え、認定証とメダルを与えることにより、励ましと意欲を高めている。それは続けることの大切さを体験し、体力づくりと耐える心を養うのに絶好の場である、と思っている。

③ 本校の華——心を結ぶ鼓笛パレード



心豊かな子供を育て、音楽による連帯感と集団美を求めて、38年度鼓笛隊は発足した。毎年の運動会や町体育祭に、又中央実地審査等にも高く評価された鼓笛隊は、4年以上(一部3年)およそ100名前後で編成している。本年度は、校歌→歌えバンバン→ソーラン節→甲賀音頭→まりと殿様→今日の日はさようなら→線路は続くどこまでも等。

④ 一貫して続けるむし歯と近視の対策

本校は15年間、むし歯治療率は殆ど100%、これは自慢してもよいであろう。当初は歯科医の協力で曜日を決め放課後、教師の引卒による集団治療により達成した。その熱意が反映してか、以後親の責任により100%治療を継続している。なお、53～54両年度、むし歯予防推進校として文部省指定を受け、予防の面からも永久歯のむし歯発生率を14.1%におさえる等、新たな成果を収めている。

なお、近視対策でも10年間遠望訓練を行い、51年以降は中国式の「目の体操」を取り入れ、今も根気よく続けている。今年度視力0.9以下の児童は

10.6%、真剣に取り組んでいる割には、目立ってよくはならない。然し、テレビの見方や姿勢等の指導も合わせて、目を大切にすることへの習慣化と関心を深めるためには、少なからず役立っているものと思う。

- ⑤ わが校保健教育の推進役「学校保健委員会」も通算70回を越える。
- ⑥ 無言による清掃指導、花いっぱい運動、あいさつ運動(おあしす運動)等を始めて10年余、よく定着してきたものと思う。

(2) 広がる家族ぐるみ地域ぐるみの活動

人生は生活習慣の連続である、とさえ言われる。中でも性格なり基本的な生活習慣の形成には、この親子ぐるみ・地域ぐるみの活動でないと、本当の力にならないと思う。長年にわたって培われた、学校と家庭と地域の結びつきが、その根底にあって始めて、新たな信頼と協力関係が生まれ、ますます広がりと深まりを見せるようになる。紙面の都合で、長年実践されたぐるみの活動を、簡単に項目のみ列挙したい。

- ① 広がる親子体育の日(毎月第3日曜、48年~)、土曜夜の親子ナイター、親子ハイキングへと地域ぐるみへ広がる。
- ② 家族そろって健康相談——家庭健康の日(毎月第1土曜、49年~)
- ③ 目を守りがまんすることを教えるノーテレビデー(週1回~3回、52年~)
- ④ ノーテレビデーを生かす親子読書(53年~、曜日は各家庭で自主的に決める。)
- ⑤ おやつなしデーからおやつ工夫デーへ(53年~、毎週1~2回)
- ⑥ PTA奉仕作業から親子作業へ(年1回)
- ⑦ 親子で相談する学年保健委員会(年3回)
- ⑧ 先駆的な阿児町学校保健会(41年~)
- ⑨ その他交通安全指導、よその子もしかる運動、おあしす運動等地域ぐるみで。

(3) 心を結ぶ本校のふれあい教育

教育は人によって人を作る営みである。豊かな人間性の育成を願う教育は、何よりも人間尊重の精神を基盤にした『心のふれあい』を大切にしなければならない。ふれあいを求め、ふれあいを大切にし、そのふれあいの中から健かな子供の育つことを信じ、本校では51年度から意図的・積極的にふれあいの場や機会をもち育てた。それは又、この豊かで美しい自然や郷土を守り育てる心にもつながるであろうと思う。

- ① 連帯感を高める仲よしグループ

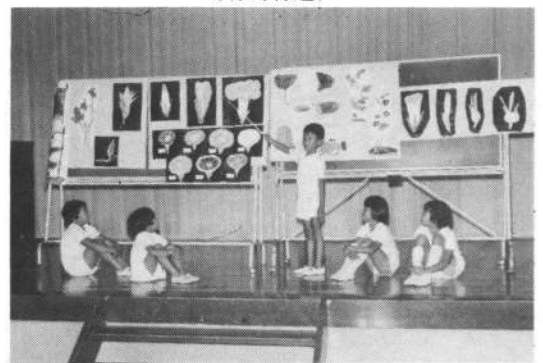
たての人間関係を育て、全校児童の連帯感を高める

ために、上級生と下級生のふれあいの場として、たての仲よしグループを組織化したのは51年度、毎年見直しふくらませて満5歳になった。

上級生と下級生とのふれあいの中で、上級生には責任感・指導性・親切心・計画性等、また下級生には所属の一員としての協力の仕方、誠実・友情・感謝する心等多くの教育的価値をねらっている。そして、当初は清掃・愛校の時間に始まり、集会活動(七夕集会・竹馬集会・クリスマス集会等)、又は遊び集会等に、今年は学校水泳や仲よし給食等の学校行事で、又来年は仲よし遠足へと、可能な限りその場を広げている。



(竹馬行進)



(1年生の「あさがお」の研究発表)



(研究発表を聞く全校生徒)



(やっとできあがった七夕集会のかざりつけ)



(上級生と下級生のふれあい)

組分けは、約30人の7グループで編成し、1年間そのメンバーも担任教師もかわらず、心のふれあいを求めている。

② ゆとりの時間を「ふれあいタイム」で

新指導要領の考え方を、結果的には先取りした形になるが、54年度は集会や児童会の時間に、また本年度は土曜日をノーカバンデーとし、第3限(10:35~11:20)を「ふれあいタイム」と名づけ、教育課程外の学習時間、すなわちゆとりの時間として特設し、計画的に実践している。

ア、ふるさと学習(昭54、集会活動)

老人とのふれあいの中で、ふるさと甲賀のよさを学ぶことによって、故郷を再発見し、又老人と共通の場を意図的・計画的に教育の場にくみこむことによって



年よりとのふれあい
踊りを学ぶ



年よりとのふれあい
わら細工を学ぶ

敬老の心も自然に培われるであろう。合わせて、自然とのふれあいの中で作る喜びも味わわせたい。

月1回、今までに約20回実施したが、中でも盆おどり、わら細工、昔の遊び等は特に感動的であった。

イ、全校音楽(昭48~音楽集会として)

全校児童の心のふれあいによる連帯感を高め、明るく楽しい学校づくりを目指し、合わせて音楽教育の向上をねらって始めた。当初は集会の前後等に歌っていたが、組織的・積極的に取り入れたのは、51年度からである。

年度当初に選ばれた月2曲程度の曲を、音楽クラブの伴奏で声高らかに歌い、合唱し、輪唱し、時には合奏も加える。又はリズムにのって動作し、幾重にも輪になって全校児童が歌い楽しむ。

ウ、遊びの指導(昭53~遊び集会として)

心身の健全な発達を期待する時、子どもから遊びを奪ってはいけない。子どもの遊びは即生活であり、喜々として遊ぶその中で学習し成長し発達するものである。本校では「明るい元気な子ども」を育てるために意図的に遊びを取り入れて3年になる。中でも集団遊びや伝承遊びを、可能な限りたてわりで実施している。

エ、愛校の時間(昭51~)

校庭
草の
引き



児童に働くことの大切さや喜びを教えるため、51年度より「愛校の時間」と名づけて、たてわりで草引き・石拾い・大掃除等を計画的に設けた。「自分たちの学校は自分たちで美しく」を目標に、雑草と石ころのない学校をめざしている。



愛校のふれあい（親と子の作業）



親子のふれあい（登茂山ハイキング）

③ 親子のふれあいから地域ぐるみのふれあいへ

教育の原点、少なくとも性格形成の原点は家庭教育にある、と言っても過言ではない。本校では児童の心と体の健かな育成を願って、ここ数年来、親子のふれあいを積極的・創造的に進めてきた。紙面の都合でその主な項目だけをあげたい。

- ア、親子体育の日（昭48～毎月第3日曜）
- イ、家庭健康の日（昭49～毎月第1土曜）
- ウ、親と子の生活記録（昭54～）
- エ、ノータレビデー（昭52～）を親子読書へ
- オ、おやつなしデーからおやつ工夫デーへ
- カ、地域に根づいたあいさつ運動
- キ、よその子も叱る運動等

④ 美しい郷土や自然とのふれあい（略）

自然とのふれあいを美しく――



6 まとめ（今後の課題も含めて）

15年間の健康教育をふり返って、長い道程ではあったが、今、自信をもって言えることは、

- (1) **子どもが変わったこと**—— 教育は子どもを変革することだ、と言われるが本校の子どもは明るく元気、常に生きているという感じがする。子どもを見てほしい。
- (2) **「継続は力なり」**を実感として味わい、新たな校風らしいものを築いた。簡単なことを徹底して実践し、それが確実にできればその次のことも波及的にできるものである。簡単な事ができない時は何もできない。
- (3) **「ふれあいの教育」**は、心の教育、愛と信頼の教育である。教育は人なりと言われるが、教師の姿勢が最も大切だと思う。
- (4) **教育の実績は**、家族ぐるみ、地域ぐるみそして学校との関係が常に太く密でなければならぬ。
- (5) **教育は、常に評価が大切**。それも具体的な評価の視点をはっきりさせ、評価し、見直し、フィードバックしながら確実ににおさえ、大きく進まねばならぬ。
- (6) **もっと子どもの心の内面にいきこんだ教育**をしなければならぬ。形よりも心を大事にする教育、本物の教育へと願ってやまない。とにかく幸福な子どもになってほしい。

〈参考までに〉今まで紹介されている雑誌等

- 児童心理（381,385,404,407号他3冊）
 - 小学校教育の創造（昭53）第一公報社
 - 学校体育臨時増刊（昭52・12）日本体育社
 - 総合教育技術増刊（昭53・11）小学館
 - ホームドクター（昭56・2月号）朝日新聞社
- 等

豊かな心、たくましい体をめざす 東明教育

〈校舎正面〉



富山県新湊市立東明小学校

教 頭 山 崎 為 雄

1 学校の概要

昭和49年4月、よく似た規模の三校を統合して、新設された開校7年目の学校である。

昭和55年度は、児童数約470名で、学級数13学級である。

校下は、昭和43年、富山・高岡産業都市計画の中で開港した富山新港の東部に隣接している。

昭和28年4月に、新湊市に合併した旧海老江・本江・七美村の三地区からなり、人口約5000人、戸数約1300戸で、兼業農家が半数以上の半工半農地域である。

校舎の屋上に立つと、北に荒海の日本海、東から南にかけて白雪の雄大な北アルプスの山々、南から西には肥沃の富山平野、西には巨船の停泊する富山新港が望まれる。

2 教育目標の具現化をめざす学校運営

(1) 教育目標

心身ともに健康で、知性に豊み、情操豊かで、たくましい実践力を身につけた自主的・創造的な人間の育成を図る。

- 進んで学び働く子ども＝知＝
- きまりを守り助け合う子ども＝徳＝
- 健康でねばり強い子ども＝体＝

(2) 目標の具現化を図る教育課程

教育課程を一人の子供の立場から見直し、教育活動の総合化を図る教育課程を編成する。

○ 教育目標が、児童一人一人の姿に具現するように、児童の発達段階や能力を考え、学習や生活に結びつく簡明な行動目標を持たせる。「目当て達成コーナー」を設け、自己評価を中心として、一人一人の児童による自己管理をめざす。

○ 児童の健康の保持・増進と安全指導・管理に努め安全で清潔な環境づくりに努める。

○ 充実した遊具や施設を活用して、体力づくりを押し進める。

創作したりズム運動・縄とび運動・ボール運動を常時行ったり、的当て・鉄棒・登り棒・水泳・縄とびについての段階表を作り、児童一人一人が、目当てを持って挑戦し、より上の段階への到達をめざすようにする。

○ 教育活動を総合的なものにし、教育目標に即した効果あるものにする「東明活動」を充実する。そのために、活動のねらいや相互のかかわりを明らかにして計画・実施し、楽しい活気ある学校生活が一層充実することを図る。

(3) 本年度の学校運営の重点

教育活動全体について総合化する立場から、活動相互の関連を十分考え、学校の教育目標の達成を図る。

○ ゆとりある充実した学校生活を実現するための教育活動の精選と負担の適正化。

○ 「3つの目当て」を達成するための道徳教育・生徒指導や体育指導の充実。

○ 各教科・領域の中核的な目標を達成するための基礎的・基本的指導事項の徹底を図る指導法の改善。

○ 教育目標と教育活動の一体化を図る視聴覚教材利用の日常化。

○ 指導の成立と学習の成立をめざす評価の適正化と

目標管理の促進。

3 教育目標の具体化（3つのめあて）

(1) 具体化の方途

- 教育目標に基づき、学年ごとの年間の具体目標を知・徳・体の3つの指標として設定する。
- 知・徳・体の3つの指標から、学級の児童の実態に即して、学級の具体目標を設定する。
- 学級の目標を、さらに、具体化して、一人一人の児童の能力や個性に応じて、「私の3つのめあて」として、決定させる。

学年	知	徳	体
1年	えんぴつを正しく使う。 はさみを使う。	友達がいたら そっと待つ。	よくかんで のこすたべる。
2年	大きな声で はっきり発表する。 友達の発表を たいしにする。	チームごとに 学習にとりかかる。	しぜいに こまかくする。
3年	自分の意見や考えを 発表する。	身のまわりを きれいにする。	しぜいに 正しくする。
4年	しんけんに学習する。 工夫して仕事をし リサーチして発表を はたす。	友だちに 親切にする。	遠くへ 安全や清けつ つどめる。
5年	しんけんに学習する。 工夫して仕事をし リサーチして発表を はたす。	男女仲よく助け合っ て仕事を する。	遠くへ 運動の記録を のげす。
6年	しんけんに学習する。 工夫して仕事をし リサーチして発表を はたす。	さまじく たのしい学校生活を する。	遠くへ 運動の記録を のげす。

〈学年の指標〉

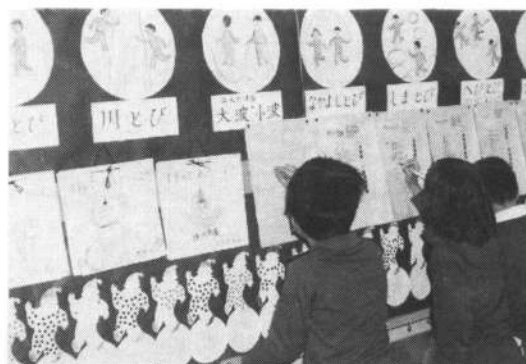
(2) 具体化に際しての留意点

- 学級の目標を「私の3つのめあて」として設定させるため、学級の実態に即して、3～5段階の達成目標を示して、決定させる。
- 担任は、一人一人の児童の「3つのめあて」を点検し、不適当と思われるものについて、助言し再考させる。
- 「私の3つのめあて」は、児童の自主的評価が可能で、達成に可測性のある具体的なものにします。
- 児童相互が学び合い、高め合うように「私の3つのめあて」を、その学級の廊下に、継続的に視覚化に工夫をして掲示し、その達成に向かって、具体的な行動で協力し合うようにする。
- 教育目標を具体化し、児童の姿に具現化させることが、全校教職員の自主的管理になるよう、総合評価を行い、その到達度を測り、問題点を明らかにして、指導計画へのフィードバックを行う。

4 自立自学をめざす東明活動

(1) 東明活動設定の視点

- 教科・領域の枠内では扱えない活動。



〈私の3つのめあての自己評価〉

教科・領域の指導だけでは、全人的な教育について欠ける面が生じ易い。教科領域の枠内では設定しにくく、さらに、教育活動の発展的・総合的な活動とする。

- 子どもの発達に即して、主体的に取り組める活動

自由で創意工夫の豊かな活動が期待でき、子どもが主体的に自らの力で取り組める活動を考える。子どもの興味・関心・必要性などの実態に即して、無理のない活動にする。

- 本校の条件に合った活動

教育課程の中に組み込み、地域性や施設・設備を考慮して活動を設定する。

- 場所・運営・材料・経費等に無理のない活動。

おかれた条件内で、実現し易い活動を考え、無理しない。形式的に流れないで、継続や発展の望める活動を取り上げる。

(2) 活動のねらいと内容 次頁

(3) 体力づくり活動例…マラソン大会

「富山県マラソンの旅」として、毎朝継続して行っているまとめで12月の降雪前に実施する。



〈5, 6年生は5kmの校内マラソン〉

(2) 活動のねらいと内容

区分	ね ら い	活 動 内 容
体力づくり 活動	○ いろいろの運動や遊びをとおして体力の向上をめざす。 ○ 保健に関する基本的習慣の育成をめざす。	・ 業間運動、自由遊び・チャンピオン大会（鉄棒・登り棒・的当て）・水泳大会・卓球大会・マラソン大会・雪上リレー大会・リレーカーニバル ・ 給食後の歯みがき・手洗い・うがい・目の体操
表現の 活動	○ 学校生活を一層楽しく豊かにすることをめざす。	・ 学級の歌づくりと発表会・父母への便り ・ 夏休みの体験発表・読書感想文発表会 ・ 自作童話会・七夕集会・雪のカーニバル ・ 音楽集会・誕生集会
作る働く 活動	○ 植物を栽培し育てることによって、自然愛護の心を伸ばす。 ○ 環境の美化に努める。 ○ 作業を通して、勤労の精神を高めることをめざす。	・ 一人一鉢栽培・学校農園・学級園・学校花壇づくり・除草と管理。 ・ 校地の除草・校舎内清掃（たてわりによる班） ・ ワックスによる床みがき・ガラス拭き。
調べる 活動	○ 郷土のよさをみつけ、郷土を愛する心を高めることをめざす。	・ 一人一研究 事例（衣食住の変化、昔の遊び、行事、ことわざ、祭り、伝説、方言など） （海や川の魚、プランクトン・植物の分布・海藻、海浜の植物、砂浜の変化など）

(4) 表現の活動例…雪のカーニバル

1年～6年の縦割りによる10グループで、題材を考え制作する。



〈雪のカーニバル〉

(5) 作る・働く活動例…一人一鉢栽培

1年～3年はペコニア、4年～6年は小菊を育て、11月にコンクールを行う。

(6) 調べる活動例…お祭り

このグループは、祭りのおみこしを調べ、それを作り、実演して、発表した。



〈苗を鉢に植える〉



〈調べ→作り→発表〉



校章

(明治41年制定)

長野県南佐久郡

臼田町立臼田小学校

校長 平林宰一郎



校門から見た校舎正面

めあてをもって

せいっぱいやりぬく子ども

1 はじめに

臼田小学校は昭和35年より昭和38年までの4年間長野県健康優良学校となった。以来20年間、学校保健、健康教育に力を入れてきた。昭和54年度は長野県健康準優良校となり昭和55年度は長野県健康優良校となり全国優秀校(中規模校)の栄誉に輝いた。

学校教育目標は「めあてをもって せいっぱいやりぬく子ども」である。

子ども一人ひとりが自分の目標や課題をもって、その解決に立ちむかい追究する子どもを育成することを念願としている。

学校保健活動、健康教育は一時間一時間の全活動を通しておこなっており、特に事後指導を大切にしている。

2 学校の沿革及び概況

開校以来108年の伝統をもつわが校は信越線小諸駅から小海線に乗りかえ臼田駅下車、徒歩20分の所にある。臼田町の中心部で官公庁関係の出先機関、商店街がある。人口16,000人余の町であり、四小学校一中学

校一高等学校がある。全校児童数630名である。

校舎総面積	4,709㎡
体育館	630㎡
用地面積敷地他	8,626㎡
運動場	12,701㎡
プール	465㎡

学級数は20(内特殊学級3)である。

3 本校教育のねがい

学校教育目標「めあてをもって せいっぱいやりぬく子ども」

- (1) 児童 自分のめあてにせまっていく途中で前のことをふりかえりながらねばり強くめあてに立ちむかう。
- (2) 教師 子どもの追究するめあてへの修正と指導と変容をねらって子どもと語りあえる。
- (3) 学校運営の要点
 - ① 道徳教育、理科教育の研究と実践。
 - ② 新指導要領にそった本校教育課程の修正と編成と一時間一時間の教科指導の充実。
 - ③ 勤労生産的分野での教育の充実。
 - ④ 健康安全教育の日々の実践と充実。

4 本校教育の特色と実践

- (1) 全校いなご取りーいなご文庫図書充実
- (2) スケートースケート教室の開設
- (3) 課外活動
トランペット鼓隊、合唱クラブー優良校となる。
スケートクラブ、体力気力の充実。優賞に輝く。
伝統をもっている。
- (4) 児童一人一研究と全校発表会
職員一人一研究と発表、まとめを冊子
- (5) 業間体力づくり、はっきり運動
- (6) 花づくり、一人一鉢、学年花だん、学校花だん、
町を花いっぱいにする。
- (7) 創造の時間 学級追究活動（テーマをきめてとりくむ）
- (8) 学習指導研究
理科 信州理科教育研究大会（11月15・16日）300余名参加
道徳 文部省指定道徳教育研究発表会（12月4日）300余名参加
白田町の小・中学校が地域指定
保健教育 発達段階に応じた性教育のあり方

5 保健教育の重視

学校保健委員会での問題として体格に比べて体力がおちている。虫歯のり患率が全国平均よりおちている。骨折・打撲が比較的多い……など。

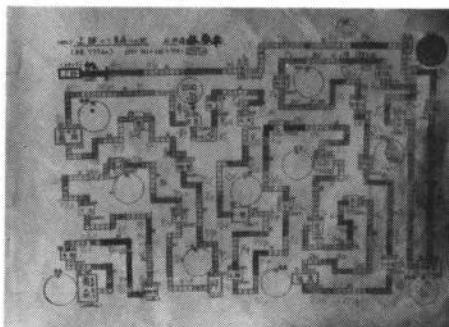
自分の健康は自分で守り自分の力で増進していくことをモットーにして学校と家庭・地域の連携プレーがあってこそ効果があがるものである。



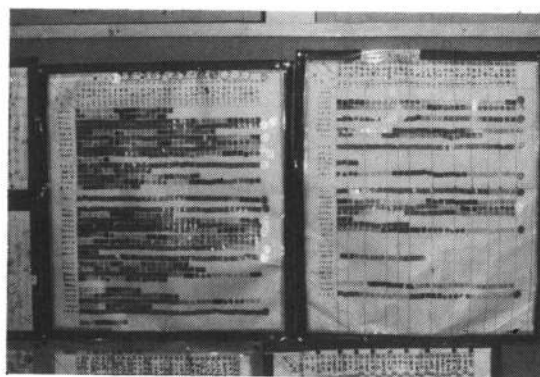
毎朝始業前校舎のまわり（500m）をマラソンして

6 本校の具体的活動と実践

- (1) 全校早朝マラソン
校舎一周が500m何周まわるか個人によりことなるが個人票（白田→小諸→上野）日本一周を目標にとりくんでいる。



マラソンの個人記録



マラソンのクラスの記録

- (2) 花づくりと健康
一人一鉢づくりを学級、学年、全校のメイン花だん、そして町へ大鉢を出し地域との結びつきを考え実践している。



花と一人一鉢運動と健康を願って

(3) 業間体操（はりきり運動）

第2校時休み時間（10分間）をはりきり運動の時間として日課表に位置づけ、学級、学年体操を独自で考えて実施する。



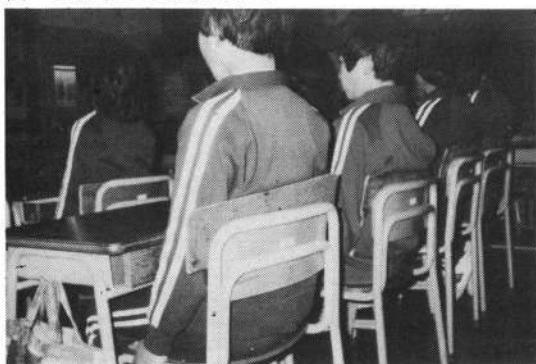
第2校時の休み時間（はりきり運動）の棒体操

また全校運動として、棒体操、なわとび、ブランコ、タイヤくぐり、平均台（電柱利用）などの運動を行っている。



校庭の一隅の平均台（電柱利用）

(4) 授業中の姿勢を正して



授業における姿勢を正して（ベニヤ板使用）

このクラスでは目立って授業中の姿勢が悪かったので担任の女子O先生は、背のうしろ、いすと身体の間へ、ワラ紙をはさんでいたが、紙の音がするのでやめて、ベニヤ板にかえて、姿勢の矯正に努めた。姿勢が悪いとベニヤ板が、いすの上へおちるので子どもたちは姿勢の悪いことに気づく。アイデアにとんだ簡単な正しい姿勢の矯正に役立つ。

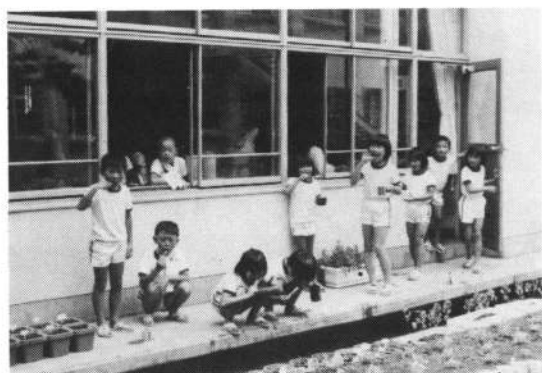
(5) 学校給食と全校一斉歯みがき

たのしくおいしい学校給食（町の給食センターで）もりつけも後かたづけも、自分たちの手で、と、はりきる子どもたち、手ぎわよく、さめないうちにいただける。



たのしい給食時、もりつけもばくとわたし

給食後、教室内外での歯みがきの励行、習性化がねらいであり、実践化するところに指導の大切さがある。



給食後の歯みがき 全校一斉

(6) トイレの清掃も

清掃の時間は、給食後の休み時間の後、一斉に15分間、タテ割り清掃を実施。1年～6年までがグループになり分担地域へ三三五五散らばり上級生と下級生の人間関係ができ心のふれあいに効果がある。トイレ

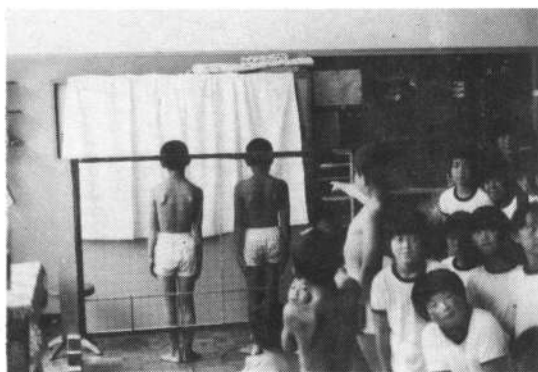
の清掃も自分たちが行い、清潔なトイレで用便できる。



トイレの清掃もぼくたちで

(7) 自作の脊柱測定器を考案して

古障子を利用しての側彎症の第一次発見に大いに役立っている。養護教諭の〇先生が考案し自作したものである。町内四小学校でも利用している。当校自慢の一つでもある。



自作の脊柱測定器

(8) 追究活動を通しての健康づくり

本校では学校裁量の時間（創造の時間）を週2時間とり各学級では、児童中心に諸活動を展開している。

例えば追究活動の実践として一年生は「でんでんむし」とか、「まめの変身」とか、四年生では、「ニワトリの一生」、五年生では「稲荷山とわたくしたち」とか。六年生の二組のとりくみは、「タイムトンネル」と題して古代の住居の復元（遠足、修学旅行を通して大深山遺跡の住居跡の見学、土呂遺跡の見学）にとりくみ古代人の精力的な勤労と創意と工夫に、魅力をもち健康的な生活とその智慧を知り、8ヵ月かかってみごとに完成

した。思い通りの服装をして、この家の中で食事をとった。校庭の桜並木の一隅に今もこの住居がある。



追究活動（古代の住居にとりくんで）と大昔の健康

7 あとがき

本校では特別に健康の時間をとり出しての実践ではない。教育課程にそった一時間、一時間の授業の中に保健活動があり健康教育があり、その実践活動にとりくんでいる。たとえば授業中に教師の机間巡視という場面がある。そのとき児童の姿勢をみて姿勢の矯正ができる。その気づきが、そのつみあげが今回の優良校の栄誉に輝いたことと思われる。また佐久病院があり校医の先生がた全員が児童の健康に留意をもっている。

編集後記

- 健康優良学校の栄誉ある表彰をお受けにいただきました学校に対し、深甚なる敬意と祝意を表します。
また、お忙しい時間を割いて、貴重な玉稿をお寄せいただき、恒例の特集号を発行できますことを感謝しております。
- この小誌が、お読みくださる方々のご参考となり、健康教育への関心が深まりますよう念じますとともに、ますます、ご発展をお祈りいたします。

〈係〉

大規模の部 (19学級以上)

全国特別優秀校	静岡県浜松市立竜禪寺小学校
全国特別優秀校	愛知県岡崎市立岡崎小学校
全国優秀校	岡山県赤磐郡山陽町立山陽小学校
全国優秀校	山口県光市立浅江小学校
全国優秀校	東京都豊島区立高松小学校

中規模の部 (18学級以下 7学級以上)

全国優秀校	京都府京都市立有濟小学校
全国優秀校	福岡県遠賀郡遠賀町立広渡小学校
全国優秀校	富山県新湊市立東明小学校
全国優秀校	長野県南佐久郡白田町立白田小学校
全国優秀校	栃木県下都賀郡大平町立大平東小学校

小規模の部 (6学級以下)

全国特別優秀校	新潟県東頸城郡牧村立牧小学校
全国特別優秀校	三重県志摩郡阿児町立甲賀小学校
全国優秀校	鳥取県岩美郡岩美町立田後小学校
全国優秀校	青森県黒石市立牡丹平小学校
全国優秀校	山口県徳山市立馬島小学校

育ちざかりの
ひと粒!



体力をつけ健康を保つ

歯・骨を丈夫に……

カワイ肝油ドロップ



河合製薬株式会社

東京都中野区新井 2-51-8